

促使台灣的日語文專攻生能生存於現代社會之支援方法 — 透過對其創作作品之分析 —

黃英哲

臺中科技大學應用日語系副教授

摘要

在瞬息萬變的時代中，社會對日語文專攻學生的期待是：盼其能有豐富的想像力和合理的思考能力並為社會帶來新的創意與創作。而日語文教學界全體人士亦應常自問：是否已培育學生擁有不會被 AI 取代的思維能力。為設計培育思維能力的方法，本篇論文針對台灣各大學的日語文相關科系裡開設名為「畢業製作」的相關科目進行了調查，綜觀相關的過往研究後，筆者針對自身所屬大學裡高階日語程度的學習者創作出之 52 份發表海報予以觀察與解析，並依據分析結果設計出培養思維能力的教學方法與教學大綱。主要研究成果如下：(1) 畢業專題製作在台灣的大學日語文相關專攻的學系中被視為重要的科目。該科目對學生而言，不僅可有發揮創作力與表達力等之機會，也有機會藉此磨練思維能力。(2) 學生的成品中，有數位化的作品、跨領域的創作、也有的是涵蓋了現代議題，顯示出其卓越的能力和技能的優良作品。然而，不少作品裡仍存在著缺乏自我理解、自我要求與執行動機等後設認知不足的現象，這些再再顯示教學現場需更著重提升學生思維能力。(3) 建議日語文專攻生執行創作時應針對 CAOO 四大面向進行構思，亦即創作者本身之特色(C)、觀眾的需求(A)、其他創作者之狀況(O)、俯瞰的視野(O)。(4) 提出了一份旨在培養思維能力的課程大綱供日後教學參考。

關鍵詞：日語文專攻生、後設認知、傳達力、思維能力、支援

受理日期：2023 年 08 月 29 日

通過日期：2023 年 10 月 20 日

DOI：10.29758/TWRYJYSB.202312_(41).0001

A Research about supporting Rational Creative Practices for Japanese Major Students in Taiwan: Focusing on the Analysis of their Creations

Huang, Ying-Che

Associate Professor, Department of Japanese Studies, Taichung
University of Science and Technology

Abstract

In this rapidly changing era, what society expects from Japanese language major students is to provide the society with new ideas and creations based on abundant imagination and rational thinking. Those involved in Japanese language education must always ask themselves, "Are we nurturing Japanese language majors with thinking skills that cannot be replaced by AI?" Therefore, This article provides an overview of the implementation status of subjects with names like "Graduation Projects" in Japanese-related departments at various universities in Taiwan. The goal is to devise methods for cultivating thinking skills. This research also reviews relevant prior studies. The author analyzed 52 presentation posters created by advanced Japanese learners at the author's university. Based on the results, the author developed teaching methods and syllabi to cultivate thinking skills. The following are the main research outcomes of this research. (1) Graduation projects are regarded as crucial subjects in the Japanese language-related majors of universities in Taiwan. For students, this subject not only provides opportunities to present their creative and expressive abilities but also serves as a chance to cultivate their thinking capabilities. (2) Among the students' works, there are digital creations, interdisciplinary compositions, and even those that address contemporary issues, showcasing excellent abilities and skills. However, many works still exhibit a lack of metacognition, such as self-understanding, self-demand, and motivational execution. These aspects emphasize the need for further enhancing students' thinking abilities. (3) The author suggested that Japanese language majors focus on the following four major aspects when planning their creative work: The characteristics of the creator(C), audience(A) demands, the situation of other(O) creators, and an overall(O) view. (4) A course outline aimed at cultivating thinking abilities has been presented for reference.

Keywords: Japanese Language Major Students, Metacognition,
Communication Skills, Thinking Ability, Support

現代を生きる台湾人日本語専攻生への支援方法 —学習者による創作物の分析を通して—

黄英哲

台中科技大学応用日本語学科准教授

要旨

めまぐるしく変化する時代にあって社会が日本語専攻生に期待しているのは、豊富な想像力と合理的な思考力に基づく新たな発想と創作を社会に提供することである。日本語教育関係者は常に「日本語専攻者を AI に代替されない思考力を持つように育成しているか」と常に自らに問わなければならない。本稿は、思考力を育成する方法を考案するために、「卒業制作」といった名称で台湾の諸大学の日本語関連の学科に設置されている科目の実施状況とこれに関連する先行研究を概観したうえで、筆者の所属大学の上級の日本語学習者が創作した活動発表用ポスター52点を観察して彼らの特徴を分析し、その結果に基づいて思考力を培う指導法とシラバスを考案した。主な結果は以下である。1.台湾の日本語関連学科において「卒業制作」という創作を行う科目は重視されており、学生にとって発想力と表現力を発揮し思考力を磨く機会となっている。2.制作作品の中には、デジタル化された作品、学際的な作品、現代的課題を取り上げた作品など優れた能力と技能の存在を示すものがあつた一方、自己理解、自己要求の認識、動機付けなどにおけるメタ認知の働きの不十分さを窺わせるものが多数あり、思考力を強化する支援が重要であることが示された。3.支援方法として、創作者自身の特色(C)、観衆の関心事(A)、他の創作者の状況(O)、全体的な視野(O)の4つ(CAOO)について発想するという方法を提案した。4.思考力育成を目指す授業のシラバスを提案した。

キーワード：日本語専攻生、メタ認知、発信力、思考力、支援

現代を生きる台湾人日本語専攻生への支援方法 —学習者による創作物の分析を通して—

黄英哲

台中科技大学応用日本語学科准教授

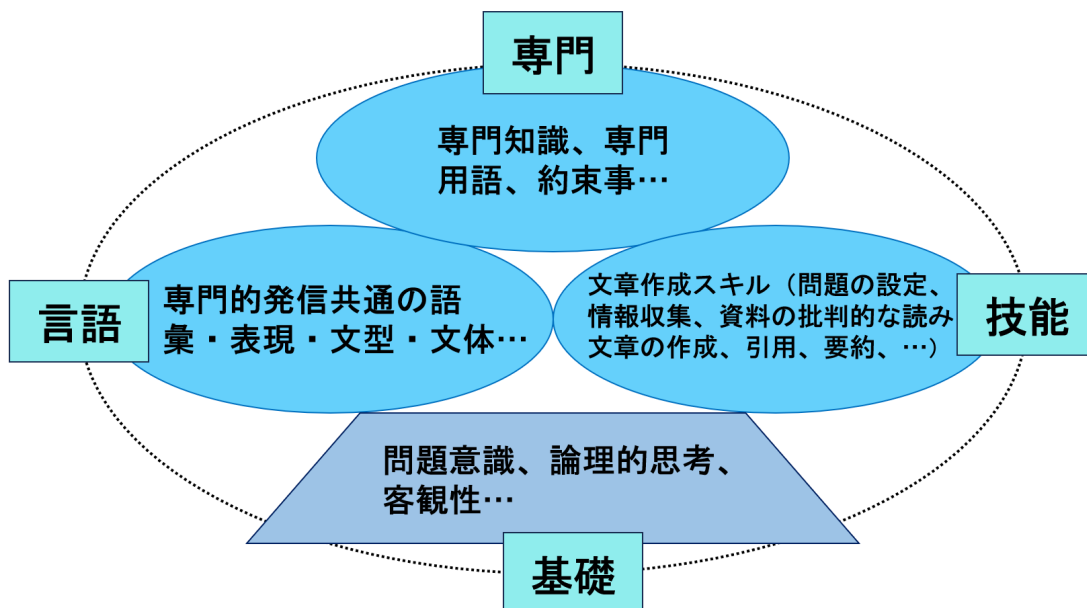
1. はじめに

情報技術が急速な進歩を遂げた今日、文系専攻者にはその独自の強みを一層強く打ち出すことが求められている。日本語学科という典型的な文系学科の教育に携わる教師陣は、以前から「創作」という活動の持つ教育的意義を認識し、有能な人材を育成するために「卒業制作」および類似の名を持つ科目を通して創作を行わせてきた。こうした科目では、卒業前の学生が、レポートや論文、実物作品を作成したり自分の専門能力を証明するパフォーマンスを行ったりする学習活動を行う。大学によって名称および必修か選択かの位置付けは異なり、「卒業專題製作(卒業制作)」、「專題研究(特定研究)」、「總結課程(總結ゼミ)」、「實務專題(實務研究)」、「專題討論(テーマ別の討論)」、「專題發表(テーマ別の発表)」、「專題實作(テーマ別の実作)」といった科目名でカリキュラムに含まれている。

創作を課す意図について、曾秋桂・落合由治(2012)は、創作において学生は自律性・積極性の発揮を求められ、その過程で文章の作成力・パソコンスキル・情報の収集と管理力・対人コミュニケーション力などの技能が向上し、さらに、論理的思考力が発達すると指摘している。

思考力は、実務的文章の作成など、専門的・職業的で発揮される総合的発信の基盤をなすもので(図1)、最も重要であるが直接的に働きかけて進歩させることが最も難しいことが知られている。

本研究では、卒業前に創作を行う科目を「卒業制作」と総称し、台湾の諸大学の日本語関連学科におけるこの科目の実施状況とこれに関連する先行研究を概観したうえで、筆者の所属大学で上級の日



出典：二通信子・大嶋弥生・山本富美子・佐藤勢紀子・因京子（2004）

図 1 ライティング技能の構成要素

本語学習者が行った活動を発表するために創作した作品(ポスター) 52点を分析し、そこに現れた彼らの強みと弱みを分析する。そのうえで、思考力向上を促す指導法ならびに授業実践方法を考案したい。

以下、第二節で日本語関連学科における実施状況の調査結果を報告し、第三節で卒業制作および思考力の育成に関連する先行研究を概観する。第四節で本研究における分析の対象と方法を提示し、続く第五節で結果を報告する。最後に、分析結果に基づいて日本語専攻生の思考力の育成に資すると期待される支援方法を提案する。

2. 台湾の日本語関連学科における卒業制作の実施状況

日本語専攻の関連学科を設置した台湾の大学並びに短期大学は2023年8月の時点で43校に上る¹。それらの大学の公式ホームペー

¹ 台湾国内の日本語専攻の関連学科が設置されている大学並びに短期大学は、2023年8月1日時点で43を数える。育達科技大学、開南大学、*嘉南薬理大学、義守大学、玄奘大学、景文科技大学、*健行科技大学、*建國科技大学、*元智大学、*高苑科技大学、康寧大学、慈濟大学、実践大学、真理大学、修平科技大学、樹人醫護管理專科學校、靜宜大学、政治大学、世新大学、台中科技大学、*台北城市科技大学、台湾大学、高雄大学、高雄科技大学、高雄餐旅大学、淡江大学、大仁科技大学、大葉大学、致理科技大学、中華大学、中國文化大学、*中山医学大学、*中台科技大学、長榮大学、東海大学、東吳大学、*德明財經科技大学、南台科技大学、文藻外語大学、屏東大学、輔仁大学、明道大学、銘傳大学とな

ジで公表された 2022 学年度のカリキュラム及び以前の開講科目の記録によると、必修・選択の指定は異なるものの、43 校すべてがこうした科目を開講した実績を持つことが判明した。卒業制作として認められた活動の種類を各大学の規定の条文および事務室への確認によって調査したところ、表 1 に示した結果が得られた。

表 1 卒業制作として行われる活動²

主たる活動	数	実施大学 ※選択科目としての実施を含む
文章の作成(論文、報告書、レポート、企業の現状分析、マーケティング企画)	35	#育達科技大学、開南大学、嘉南薬理大学、#義守大学、建国科技大学、#玄奘大学、#景文科技大学、元智大学、高苑科技大学(2016年まで)、慈濟大学、実践大学、真理大学、靜宜大学、#政治大学、世新大学、台中科技大学、台北城市科技大学、#台湾大学、#高雄大学(2021年まで)、高雄餐旅大学、淡江大学、致理科技大学、中華大学、中山医学大学、中台科技大学、#長榮大学、東海大学、東呉大学、德明財經科技大学、南台科技大学、文藻外語大学、屏東大学、輔仁大学、銘傳大学、嶺東科技大学
実物の創作(教材開発、作品翻訳、動画作品、ゲーム・アプリ開発、小説・絵本作成)	23	嘉南薬理大学、健行科技大学、建国科技大学、元智大学、#修平科技大学、台中科技大学、台北城市科技大学、#高雄科技大学、高雄餐旅大学、淡江大学、#大仁科技大学、大葉大学、致理科技大学、中台科技大学、東海大学、東呉大学、德明財經科技大学、南台科技大学、文藻外語大学、屏東大学、輔仁大学、銘傳大学
実演の創作(演劇、物語のナレーション、朗読、スピーチ、アフレコ、パワーポイント発表、報道)	10	嘉南薬理大学、健行科技大学、実践大学、靜宜大学、世新大学、淡江大学、中華大学、東海大学、德明財經科技大学、南台科技大学
実習(産業・官庁でのインターンシップ、教育実習)	9	開南大学、実践大学、靜宜大学、世新大学、淡江大学、大葉大学、致理科技大学、中山医学大学、屏東大学
コンテストへの参加・受賞	5	実践大学、靜宜大学、淡江大学、致理科技大学、嶺東科技大学
ツアーガイドの企画・参加	5	嘉南薬理大学、健行科技大学、元智大学、淡江大学、致理科技大学
社会奉仕・ボランティア活動	2	中台科技大学、輔仁大学
交換留学	1	屏東大学
資格取得・検定の合格	1	大葉大学
学内の授業・試験	1	中國文化大学
不明	1	明道大学

記号#が付いていない大学は、複数の活動を規定の条文で明確に承認している。

る。*という記号が付いた九校の外国語学科においても日本語専攻のコースが設置されているか、日本語ができる人材を育成する取り組みも行われている。ちなみに、明道大学では 2023 年から新入生を募集しないことを公表した。

² 各大学の規定によれば、何人かの学生でチームを組んで制作することが認められている。チームで制作が行われている場合が多い。

学科が卒業制作と認めている諸活動を、多数のものから順に並べて図 2 に示した。複数の選択肢のどれか一つを行えば合格とする大学もあるため、活動種類の総数は学科数 43 を上回っている。文章作成を中心とする卒業制作が最も多いが、文章作成とそれ以外の活動

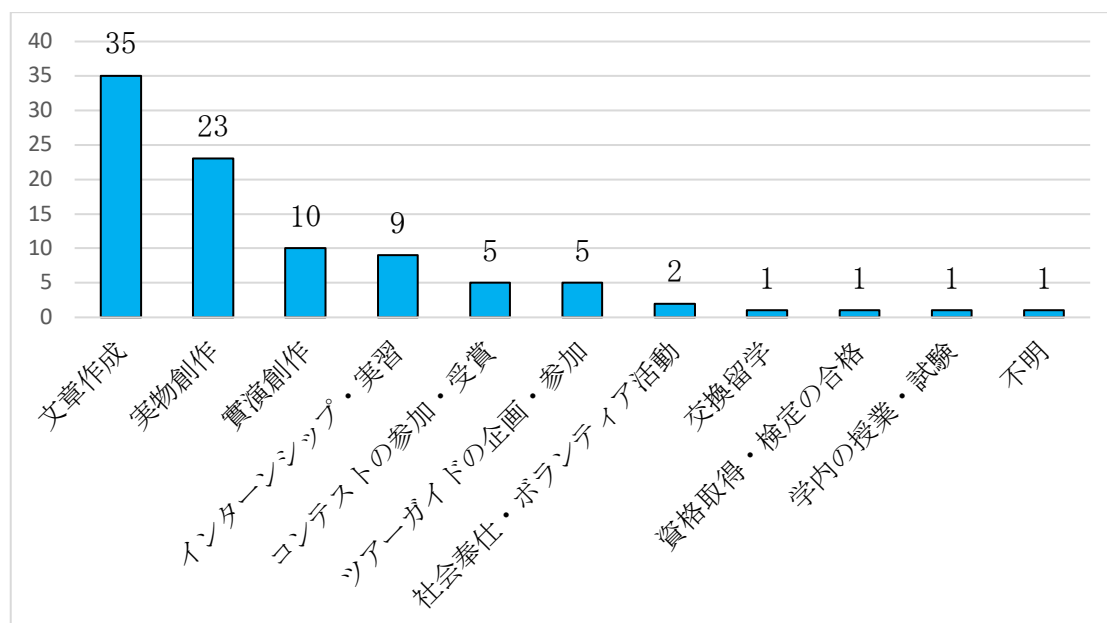


図 2 諸大学に承認されている卒業制作

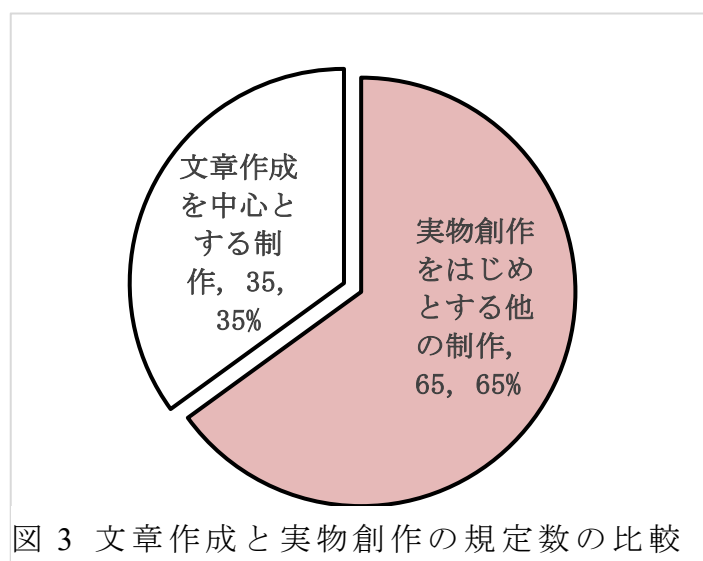


図 3 文章作成と実物創作の規定数の比較

との割合を見ると（図 3）、約七割（65%）が文章作成以外の活動であり、さまざまな活動が推奨されていることが判明した。文章以外のタイプの創作物を作る技能を身に付けることを促し時代の要請に応

える人材を育成しようとする大学の姿勢を反映していると考えられる。ただし、文章以外の創作物には報告書の添付が義務づけられており、文章執筆力が重要視されている点は変わりがなかった。

3. 卒業制作および思考力養成に関連する先行研究

前節に報告した通り、台湾の大学では日本語専攻生に卒業制作が

課され、何らかの作品を創作したり開発したりする過程を通して社会人として活躍する能力の向上が図られている。目標とされる能力やスキルの中核をなすのは思考力である。本節では、卒業制作と思考力向上に関連する先行研究を概観する。

3.1 卒業制作に関する先行研究

卒業制作に関連する研究は、教育方針（曾秋桂・落合由治 2012, 落合 2013, 黄英哲 2013, 曾秋桂 2013, 堂坂 2013）、実践の経過（落合 2013）、制作の範疇（曾秋桂・落合由治 2012, 黄英哲 2013, 黄美恵 2013, 曾秋桂 2013）、発展の変遷・経緯（曾秋桂・落合由治 2012, 曾秋桂 2013, 堂坂 2013, 鄧曉梅 2013, 蕭玉燕 2013, 黄美恵 2013）、評価の方法（落合 2013, 北川 2013）、学習者へのフィードバック（曾秋桂 2013, 蕭玉燕 2013）、実施上の問題の指摘（北川 2013, 黄美恵 2013）、指導の方針（落合 2013, 黄英哲 2013, 堂坂 2013）など、多くの観点から行われている。

教育方針としては、学習者のキャリア意識の深化（落合 2013, 曾秋桂 2013）、対日の交流人材の育成（黄英哲 2013）、創造力の促進（堂坂 2013）などを目標とすることが提言されている。

科目のあり方の変遷をして分析しているのは落合(2013)である。勤務大学に卒業制作科目が設置された 1998 年から 2013 年まで 15 年に亘る本科目の実践の状況を PDCA 分析によって検討し、1998～2005 年の 7 年間は実践萌芽期にあたり、未だ計画 (plan) と実践 (do) の段階に留まっていたが、2005 年以降は、学生に日本語運用実習の機会を与えるという実施方針が確立し、評価 (check) と改善 (act) ができるようになったという（上掲、p.79）。2013 年以降は、落合の勤務校以外の大学の日本語関連学科においても、論文以外の学生の進路と直接関わる可能性の高い活動や制作物が卒業制作として承認されるよう規定が修正されてきた。

卒業制作の主題および活動形式にも多様化を推奨する傾向が見られる。主題については、語学・日本語教育、国民性・社会現象、ビジネス、文化、文学という分類（黄英哲 2013：17-18）、食・住・交

通手段、健康問題、教育・社会問題、観光レジャー・エコ問題、流行関連、ネット・電子用品関連という分類（黄美惠 2013：124-125）が報告され、制作形式としては、曾秋桂・落合由治（2012）及び曾秋桂（2013）が、論文・レポート・翻訳・映像制作・ディベート・演劇・旅行ガイド・実習・雑誌編集・日本語創作の9種類を挙げている。

このように、卒業制作という科目の教育目標は大学によって異なり、制作作品も多様化しているが、この背景には、各大学でそれぞれの方針を決定し発展してきたという経緯がある（曾秋桂・落合由治 2012，曾秋桂 2013，堂坂 2013，鄧曉梅 2013，蕭玉燕 2013，黄美惠 2013）。

制作物の評価について、落合（2013）は、マクロ的な視点から考えることを提唱し、経済協力開発機構（OECD）及び欧州共同体（European Community）によって提出され多くの日本企業によって導入されたコンピテンシー評価を大学でも取り入れるべきだと主張している。また、北川（2013）は、制作の主題に関連した先行研究の成果を踏まえることができるかどうか、新たな発見・見方・主張を提示できるかどうかを基準とすることを提案している。

卒業制作を経験した学生が活動をどのように評価したかについての調査も行われている。曾秋桂（2013）は133名の学生を対象に意識調査を実施し、進路選択での有用性、制作上の満足度、科目の存在意義という項目で学生から肯定的評価が得られたことを報告している。蕭玉燕（2013）は、科目履修者23名を対象に調査し、①履修者の多くは日本語による文章作成、及び研究の方法に自信がない、②日本語の添削と教師からの具体的な指導が不足している、③総合的収穫として論文作成力の習得やチームワーク精神の獲得が認識されている、と報告している。

卒業制作科目の実施に伴う問題や困難も指摘されている。北川（2013）は、学生に求める主要な目標、使用言語、口頭発表の義務化の有無、評価基準に関する問題点を指摘し、黄美惠（2013）は、

主題の広範化、基礎能力の養成不足、教師の負担に関する困難を報告している。

卒業研究科目の実績が積み重なるにつれ、指導方針と評価方法こそが重要であると認識されるようになった。指導方針について落合（2013）は、学術論文についての従来の観念にとらわれず、各大学がそれぞれの特色を把握して国・社会に必要なとされている能力を伸ばすという方針で学生指導に臨むことを提唱している。黄英哲（2013）は、指導にあたる教師には①建設性と独創性のある主題の設定に導くこと、②制作の動機と意義の明確な認識の確立を目指してキーワードを並べさせること、③予備調査と計画の大切さへの理解を促進すること、④研究・制作の具体的手順の知識を具体的に提示することが求められると指摘している。堂坂（2013）は、「なぜこのテーマなのか」、「結果をどう役立てたいのか」を学生に問いかける誘導式の指導、即ち、学生の潜在力を引き出す指導を行うべきだと主張している。これらの指摘がなされてから 10 年ほど経過しているが、現在でもその妥当性は失われていない。

とはいえ、AI（人工知能）技術が長足の進歩を遂げ、文章作成ソフトが手軽に使用できるようになった 2023 年以降は、この現状を踏まえた指導を行うことが必要だと考えられる。AI を利用できる部分と日本語専攻者こそが貢献できる部分を見極めることが重要であり、後者の中心に合理的な思考力があることは、改めて指摘するまでもない。

3.2 思考力の向上に関する先行研究

有意味な創作を生み出すためには、情報の単なる蓄積ではなく、それを稼働させる技能こそが重要であることは夙に知られている。豊かな発想を刺激するための方法として、論理的思考³（logical

³ 論理的思考はロジカルシンキングとも呼ばれており、直感や感覚で物事を捉えるのではなく、道筋を立てて論理を積み重ねて結論を組み立てる思考方法である。

thinking)、水平思考⁴(lateral thinking)、統合思考⁵(integrative thinking)、批判的思考⁶(critical thinking)、実践論理思考⁷(rational thinking)、高速思考法⁸(speed thinking)、システム思考(systems thinking)など、様々なアプローチが提唱されてきた。これらのうち、Meadows(2008)が提唱したシステム思考は、①全体を理解する、②要素・時間・傾向の関係を観察する、③視点を変える、④特徴を識別する、⑤自分自身や他人の態度や信念を理解する、⑥完全な理解を追求する、⑦労力を省く方法を見つける、⑧全体の内部構造に焦点を当てる。⑨長期と短期の視点、そして予期しない変数を考慮する。⑩現在を見据えて未来を展望する。⑪仮説を見つけて検証する、⑫変化後の効果に注目する、⑬変化がもたらす影響を理解する、⑭システム内およびシステム間の関連性を見つけるという 14 項目を、思考を進める手順として提案しており、従来の提案の集大成と見なせる。次節以降で報告する学生の創作物の分析と指導方法の考案はこの 14 項目を利用して行った。

台湾で発表された、日本語専攻生の思考力を向上させる試みに用いられた方法には、相互教授法(小林 2010)、マインドマップ(李宗禾・曾淑惠 2010)、TAE(陳淑娟 2010,陳姿菁 2011)、フィッシ

⁴ 水平思考はラテラル思考とも呼ばれており、何らかのギャップを意図的に引き起こし、そのギャップを埋めるような変更を繰り返しながら解決の糸口を探り当てる発想法で、問題解決のために既成の理論や概念にとらわれずアイデアを生み出す方法である。

⁵ 統合思考はインテグレーティブ・シンキングとも呼ばれており、多様、複雑、全体を考えることができ、妥協をしない発想法である。

⁶ 批判的思考は、様々な物事や意見を冷静かつ客観的に把握し、それが正確なのかと批判的な問いかけをすることで、その本質を見極めようとする思考の方法である。つまり、批判のための批判ではなく、物事を論理的で構造的に考える思考パターンであることを指す。

⁷ 実践論理思考は、合理的思考やラショナル・シンキングとも呼ばれており、ロジカル・シンキング(論理的思考)が「形式論理思考」と考えられているのに対し、実践論理思考がその言葉通り、より実践的であることが大きな特徴である。つまり、ある価値や用途に対して、理に適っているかどうかを考えたり、実際的な合理性・有理性を計算しりする思考法である。

⁸ 高速思考法で強調されているのは、注意を張りめぐらせ、細部にまで目を向け、関連性を敏感にとらえ、高速で言葉が拾えるように練習することと、聞きながらノートを取ることに、思い浮かんだアイデアを書き取ることに取り組むことである。

ユボウル方式（中村 2016）、PBL（許均瑞 2017）、問題質疑（羅曉勤 2017）、シンク・ペア・シェア（栗田 2019）、ケース学習（羅曉勤 2019）、ORID（黄英哲 2023a,2023b）、FOES（黄英哲 2023a,2023b）などが挙げられる⁹。これらの実践においては、教師側が思考のテクニックやプロセスに関する暗示や指示を与え、日本語による理想的なインプット（読解）とアウトプット（口頭伝達、ライティング）を求め、それぞれ効果を挙げている。しかしながら、これらはいずれも、授業デザインを先に選び、それに基づいた指導を実践しており、学習者の実態の分析からの知見があまり勘案されていない。

そこで本稿では、次節以降、筆者の所属大学の学生たちの卒業制作の成果物の分析を行い、その結果から得られた知見に基づいて思考力向上を目指す支援方法を案出する。

4. 研究方法

分析対象は筆者の所属大学の応用日本語学科に 2019～2022 年に提出された卒業制作の作品 52 点（表 2）の発表に用いられたポスターである。各作品の題目は巻末の付録に示した。

表 2 年度別分析対象作品数

学年度	2019	2020	2021	2022	総数
作品数	17 本	7 本	15 本	13 本	52 本

制作にあたった学生は全て 3 年半から 5 年半に亘って日本語文化を専攻してから必須科目「卒業制作」を履修したものである。2～6 名でグループを形成し、十ヶ月にわたって各自の指導教師の指導を受けた後、ポスター発表を行った。ポスター発表とは多くの学会でも頻用される発表形式で、発表者は A1 の用紙(約 59.4cm*84.1cm)に研究概要をまとめ、来場した観衆に紹介する。対象者の日本語能

⁹ 相互教授法 (reciprocal teaching)、マインドマップ (mind map)、TAE (Thinking At the Edge)、フィッシュボウル方式 (fishbowl-style)、PBL (Problem based learning)、問題質疑 (problem-posing)、シンク・ペア・シェア (Think-Pair-Share)、ケース学習 (case learning)、ORID (Objective, Reflective, Interpretive, and Decisional)、FOES (Fact, Opinion, Example, and Solution)

力は全員が上級レベル以上だったと考えられる。卒業要件として日本語能力試験（JLPT）の N1 合格が求められているため、卒業研究に取り組んだ時点で多くが N1 に、少なくとも N2 に、合格していた。

本稿では、図 4 と図 5 のような、卒業制作活動を紹介するポスターを分析対象とする。長い間取り組んだ研究の成果がまとめられた一枚のポスターには、構築力・組織力・整理力・表現力を含む思考力が反映されていると考えられるからである。



図 4 ポスター発表 3-109



図 5 ポスター発表 11-111

分析は「内容」と「外観」の2側面について行った。「内容」では、①制作意義に関する記述、②制作成果に関する記述、③制作方法に関する記述、④ポスターの内容の見出し、⑤先行研究（制作）に関する記述、⑥参考文献の羅列を、「外観」では、⑦制作者及び指導者の提示、⑧テーマの分かりやすさ、⑨ポスターのデザインという計9項目について評価を行った。

評価の項目と基準は表3に示した。評価者は、創作者以外の判定協力者5名（N1レベルの日本語専攻生3名、N3レベルでデザインが得意な日本語専攻生2名）に筆者を加えた計6名である。学生を評価者としたのは、発信が目指す聴衆に届いてこそ価値を持つもの

である以上、卒業制作発表では教師の評価と同様、あるいは、それ以上に学生による評価が重要であると考えたためである。6名のうち3名以上が不適切と判断した場合にその項目の判定を不適切とした。

表 3 評価基準

意義	貢献や建言に関する記述が見られても、語レベルで言及されただけであれば不適切と判定する。
成果	僅かな記述があっても文レベルで明確に述べられていなければ不適切と判定する。
方法	実施方法に関する名称が見られてもそれに関する説明がなければ不適切と判定する。
見出し	背景、目的、方法、結果という見出しが挙げられていれば適切と判定をする。4項目のうち一つでも不足していれば不適切と判定をする。即ち、上記の4つの要素が最低要件である。
先行研究	語句レベルで言及したことに留まる場合は不適切と判定をする。
参考文献	発表者、発表年、題目、学術誌名（書名）、出版者、ページ数のうち、一つでも不足していれば不適切と判定をする。
制作者の明示	制作者及び指導者の氏名が明示されていなければ不適切と判定する。
テーマ	明瞭さ、理解しやすさ、明快さの各点を判定する。
デザイン	イラストの関連性、字の大きさ、ポスターの紙幅の有効的な活用、写真や図絵、図表の有用性と適切性を判定する。

5. 分析の結果とその示唆

5.1 分析結果

52本の卒業研究の作品の種類は、論文、書籍¹⁰、ゲーム類、アプリ、ウェブサイトの5つに分類された（図6）。主題は、社会文化、ビジネス、言語学習、福祉関係、歴史関係に分けられた（図7）。

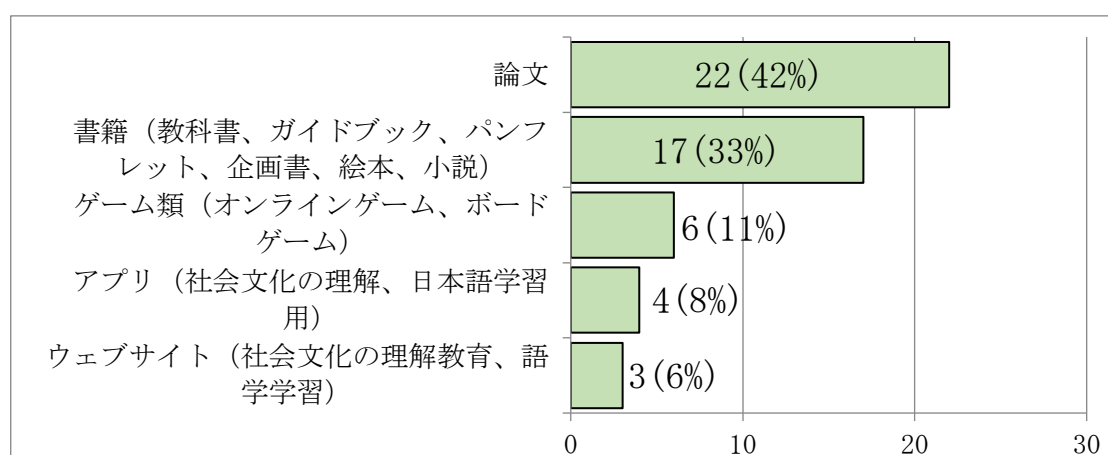


図 6 卒業制作作品の種類 N=52

卒業制作の扱う対象が日本に関連する事柄なのかそれ以外の事柄

¹⁰ 書籍の制作においては動画、音声というデジタル形式のものが添付された作品もある。

を含むのかを検証したところ、台日両方、台湾中心、日本中心の 3 つのタイプが存在し、それぞれ 5 割強(54%)、3 割弱(27%)、2 割弱 (19%)であることが判明した(図 8)。ポスター自体の評価について、種類を分けず、前述のように構築力、組織力、整理力、表現力を含む思考力がどのように反映されているかを中心に評価した。そこで、ポスターに記された内容と外観の完成度を上述の 9 つの観点から評価したところ、表 4 に示した結果となった。

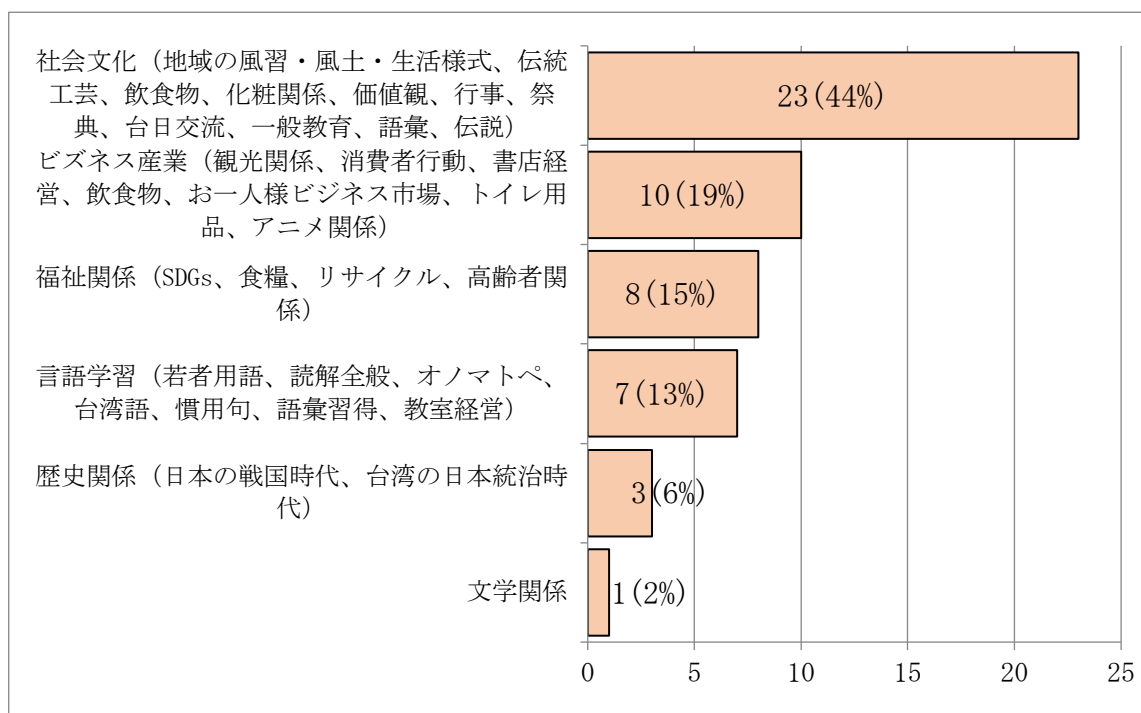


図 7 卒業制作作品の主題の分布 N=52

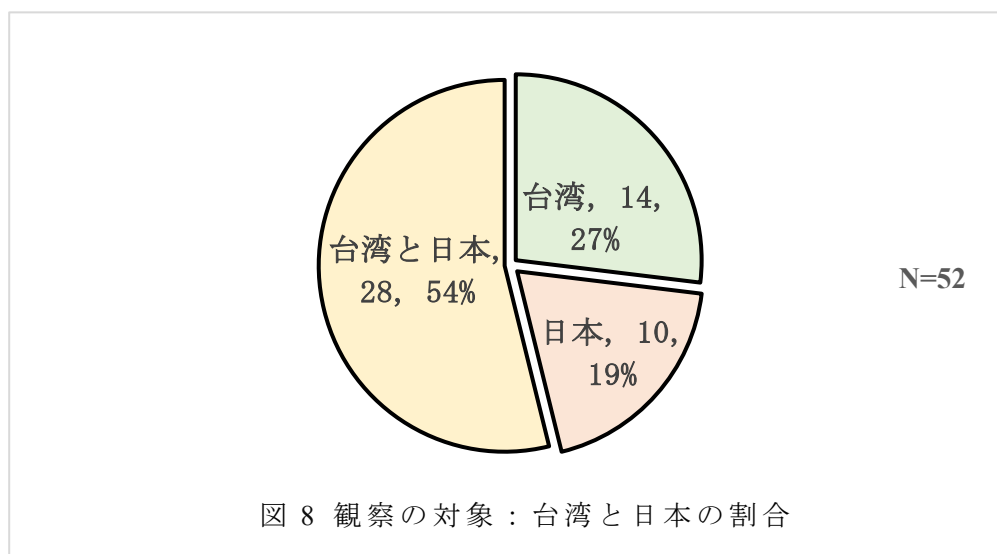


図 8 観察の対象：台湾と日本の割合

表 4 ポスターの完成度

N=52

内容	適切	不適切	なし
①制作意義に関する記述	20 (39%)	24 (46%)	8 (15%)
②制作成果に関する記述	29 (56%)	16 (31%)	7 (13%)
③制作方法に関する記述	12 (23%)	15 (29%)	25 (48%)
④ポスターの内容の見出し	24 (46%)	16 (31%)	12 (23%)
⑤先行研究(制作)に関する記述	0 (0%)	3 (6%)	49 (94%)
⑥参考文献の羅列	0 (0%)	4 (8%)	48 (92%)
外観	適切	不適切	
⑦制作者及び指導者の提示	45 (87%)	7 (13%)	
⑧テーマの分かりやすさ	44 (85%)	8 (15%)	
⑨ポスターのデザイン	19 (37%)	33 (63%)	

以下、5.2 ではポスターの内容記述の傾向から得られた教育への示唆、5.3 ではポスターの外観の傾向から得られた教育への示唆を述べる。

5.2 ポスターの内容記述の傾向から得られる教育への示唆

以下、作品の種類、主題、観察に用いられた対象、制作の意義、成果、方法の記述、見出しの構成、先行研究と参考文献の取り扱い方を分析した結果とそこから得られる教育への示唆を述べる。

5.2.1 作品の種類からの示唆

図 6 に示したように、調査対象となった卒業制作には、書籍の編纂、教育に繋がるゲーム、文化理解や言語学習に用いるアプリ及びウェブサイトなど、多岐にわたる作品があったが、論文が 42% を占めたほか、教科書、ガイドブック、パンフレット、企画書、絵本、小説の執筆など、言語表現が中心となる作品が大多数を占め、文系以外のスキルが求められるアプリ及びウェブサイトなどの制作はわずかであった。

大学が学術研究の場である以上、論文に取り組む学生が多いことは当然の結果であり、また、語学専攻者が言語技能を主とする作品を作ろうとするのは無理のないことである。しかし、視覚・聴覚など複数の感覚に直接訴えるマルチメディアの利用が著しく広がっている今日、理工系学生やデザイン専攻者ではない日本語専攻者も、既存の前提や枠組みにとらわれず、斬新なアイデアに基づいてマルチメディア活用に取り組むことが望ましい。

そのためには、学生が発想の幅を広げ必要なスキルの獲得に励むよう、指導者が直接的・間接的働きかけをすることが求められる。

5.2.2 作品の主題からの示唆

図7に示した通り、卒業制作作品の主題は6種類に分けられた。地域の風習・風土・生活様式、伝統工芸、飲食物、化粧関係、価値観、行事、祭典、台日交流、一般教育、語彙、伝説など、多くが社会・文化的側面の探究を行っていた。

専攻してきた分野の知識や技能の集大成として適切な主題を選択していることは評価できるが、卒業後は異なる学問分野や専門分野の知識や手法を融合させることが必要になってくるだろう。この予測に基けば、新たな問題意識や発見を目指すよう誘導する必要がある、そのための教育法の構築が喫緊の課題だと考えられる。

5.2.3 観察対象からの示唆

図8に示した通り、学生たちは日本の事情や出来事だけでなく台湾の地域社会にも目を向け、台湾と日本の両方を比較するといった活動を行っている。これは、社会に貢献できるグローバル(glocal)人材になるための第一歩であると考えられる。指導者はこうした傾向を推奨していくべきである。

5.2.4 制作意義の記述からの示唆

この点については、適切な記述をしたグループが39%を占めたものの、十分な記述を行わなかった組(46%)と記述をまったく行わなかった組(15%)との合計が61%に上った(表4)。例えば、図9のポスターからは、台湾を訪れる日本人観光客に台湾の代表的なスイーツを宣伝したい、地元のスイーツの種類を調べたい、地元の人気ケーキ屋の商品を紹介するパンフレットを作成したいなどの目的を掲げて熱意を持って制作したことが推察できるが、この活動が自身や他者にとって持つ意味が提示されておらず、そうしたメタ的観点からの内省が行われた形跡はなかった。図10のポスターも同様に制作の意義に関する記述が見られず、大学卒業を控えた自己の行

う活動を将来に続く時間軸と社会に繋がる平面とに位置づけようとする視点が欠如していると考えられた。

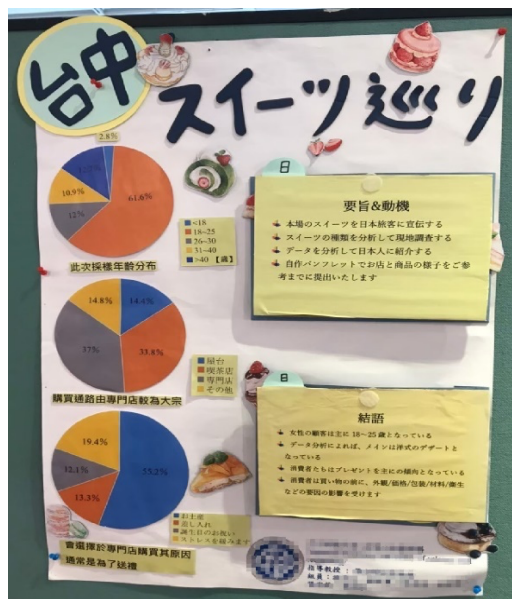


図 9 ポスター発表 5-108



図 10 ポスター発表 7-108

5.2.5 成果の記述からの示唆

成果の記述に関しては、適切に行った組が過半数であったが（56%）、記述が不十分だった組が 31%、記述が欠如していた組が 13%であった（表 4）。

図 11 は入江製菓という歴史のある製菓会社のネットマーケティング戦略を分析したものである。会社の現況と消費者の意識の調査を実施したことは述べられているが、その結果が示されておらず、

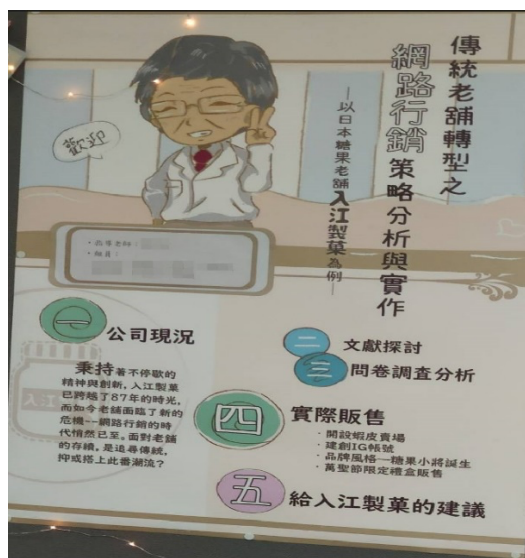


図 11 ポスター発表 8-110

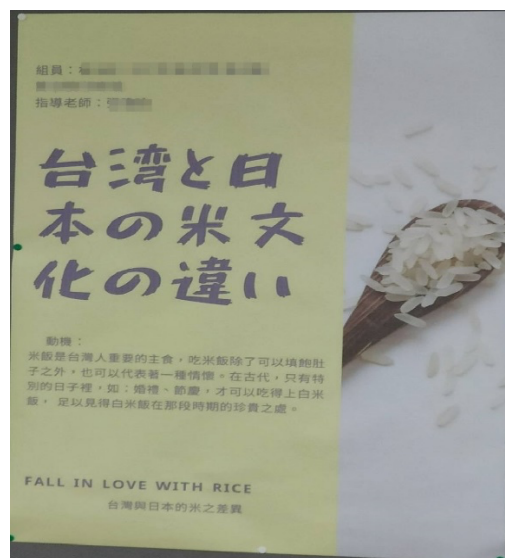


図 12 ポスター発表 4-110

「会社への提言」という見出しが作られているが、実際には何も書かれていなかった。図 12 に示した研究は、台湾と日本の米文化の違いという魅力的な主題を掲げているが、見出しは「動機」のみで、そこには米が台湾人にとって不可欠だということしか述べられておらず、台湾と日本の米文化の違いへの言及はなかった。

自らの作品を紹介するには意義と成果を示すことが必須であることをもっと明示的に指導しなければならなかったのかもしれないが、学生自身でこのことに気付くことも難しくないはずである。意義や成果を書かなければならないことを知らなかったというより、それらをどのように言語化するかを考え抜く作業を怠った可能性が高い。このことから、思考力の質の向上と同時に、考え抜くという行為の習慣化を進める必要があることが示唆された。

5.2.6 制作方法の記述からの示唆

制作の方法について適切に記述している組は僅か 23%で、記述に具体性が欠如している組が 29%、言及が全くなかった組が 48%もあった（表 4）。例えば図 13 のポスターでは、調査研究のプロセスが提示されているものの、どのようなデータをどのように入手したかについての言及がなく、SWOT 分析を行っているがその際に依拠した基準にも触れられていなかった。図 14 のポスターでは、実用的な



図 13 ポスター発表 2-109

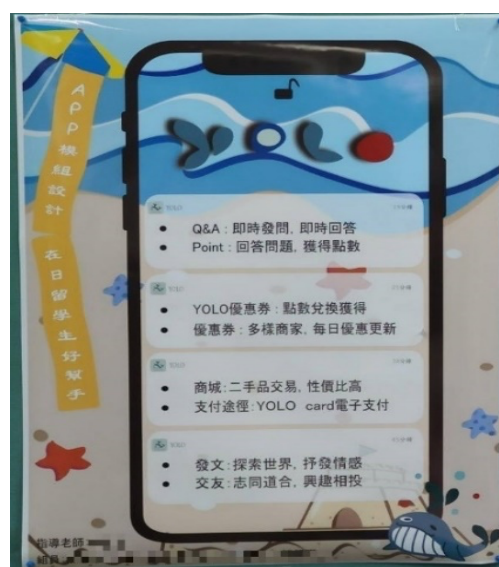


図 14 ポスター発表 10-110

アプリが開発されたことが述べられているが、制作方法が述べられていなかった。

自らの実績を他者に発信する際にその実績の意義と実践方法とを明確にすることは専門分野を問わず共通する作法であり、文系専攻者であっても心得なければならない。今後の世界では国境も専攻も超えた活動が活発化すると予測され、日本語専攻者がこの作法を確実に認識し自在に活用できるようにすることはとりわけ重要性の高い指導項目である。

5.2.7 見出しの構成からの示唆

ポスターの見出しは発表者の思考した内容がどのように整理されたかを端的に反映する。見出しが不十分、あるいは、欠如していた作品は、それぞれ 31%、23%で、過半数を占めた（表 4）。

例えば、図 15 のポスターには「制作目的、ルール、内容物」という見出しが設けられており、作品がボードゲームであることは伝わるが、作品がどのようなものであるかを説明するに留まっている。作品の意義や制作方法を提示すれば作品の価値をよりよく訴えることができたはずである。図 16 のポスターにはテーマに関連するイラストが添えてあるが、見出しがまったくなく、観衆は個々の要素の全体像や関連性を把握するのに困難を感じるだろう。



図 15 ポスター発表 8-108



図 16 ポスター発表 13-111

自分が持っている考えの全体像を把握して、他者が知覚しやすい提示の方法を考案する技能の必要性を認識させ、その技能の獲得を促す指導が求められることが示された。

5.2.8 先行研究の扱い方からの示唆

表 4 に示した⑤「先行研究（制作）に関する記述」、⑥「参考文献の羅列」は、自分自身の作品と他人の研究（制作）との関わりが考慮されているかどうかを判断する項目である。今回の対象作品の中には先行研究に言及したものがほとんど見られず、先行の蓄積を検討し関連する知見に触れることが知的生産を行う前提であることが了解されていないことが判明した。

自分自身の発想と創造を支えるこの手順を認識させ実行させる指導が必要であることが示された。

5.3 ポスターの外観からの示唆

ポスターの外観の観察では、制作者及び指導者の氏名の提示、テーマの明示の 2 項目において、適切という判定がそれぞれ 87%と 85%と高い割合を占めた。しかしながら、この項目は本来なら適切という判定が 100%であるべきもので、不適切となったものが 13%と 15%もあったことは残念な結果と言わざるを得ない（表 4）。

ポスターのデザインに問題があったものが高い割合（63%）であ

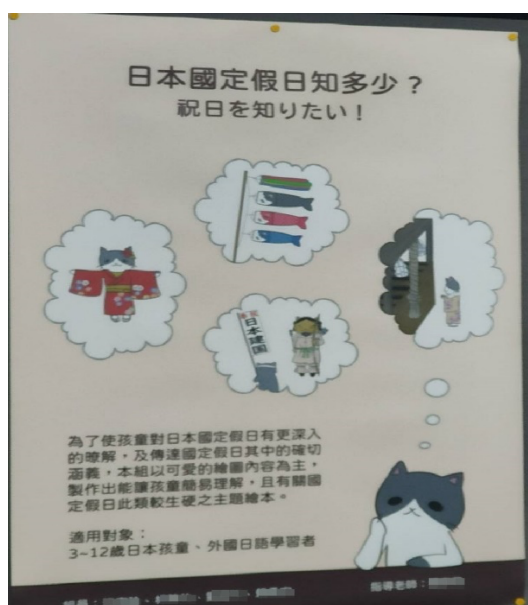


図 17 ポスター発表 9-110

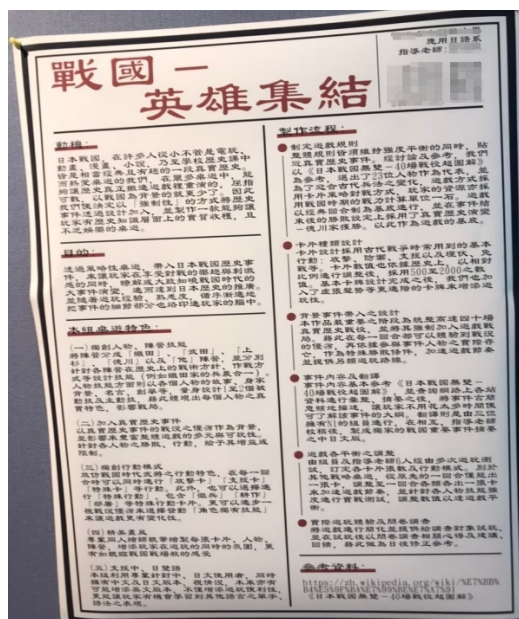


図 18 ポスター発表 9-108

ったことも残念な結果であり、今後の対応が求められる。例えば、図 17 のポスターの中には猫のイラストがあり、可愛いという印象を与えるが、内容と関連していない。外国人児童向けに制作した絵本であるため可愛さを重視したものと推察されるが、ポスターには多くの空白部分が残っているにもかかわらず制作方法や制作活動に対するメタ的な内省は記されず、卒業制作の意義が考え抜かれているとは思われなかった。

内容は優れているが他者に与える視覚的印象への配慮が十分でないと思われるものもあった。図 18 のポスターは、内容を伝える見出しが提示されているのだが、図表やイラストなど視覚に訴える要素が全くない。プレゼンテーションの最も重要な要素は内容であるとはいえ、ポスター発表という手段を用いる以上、観衆の目にどう映るかを考慮しなければならない。

他者へ発信する際には受け取る側の印象や受信の過程をできるだけ具体的に思い描くことの重要性を認識させ、イラストの主題関連性、字の大きさを、ポスターの紙幅の有効活用、写真や絵などの効果などについて熟考するよう促す必要があることが判明した。

6. 思考力の育成

卒業制作の実践を全体的に眺めてみると、全員がポスターの形での発信を行うことができたこと、デジタル化した作品や地元の事情への関心を持ちつつ台日の比較分析に取り組んだ作品など、大きな成果があったと言える。興味深いテーマについて充実した内容を適切な構成で提示した作品も見られた。例えば、図 19 と図 20 のポスターでは、台湾華語を使って地口を構成し、観客に主題をアピールしている。図 19 の題目「食在困難，球你拯救」における「食在」と「球你」はそれぞれ「實在（実に）」と「求你（あなたに願う）」の同音異義となる。つまり、地「球」に起こる「食」糧危機に向き合ってほしいという趣旨が同音異義語で伝えられているのである。図 20 の題目「塑界問題，循求轉機」の「循（xún）」は「リサイクル



図 19 ポスター発表 3-110 「食」在困難・球你拯救
 図 20 ポスター発表 7-111 「塑」界問題「循」球轉機

ル」を意味するが、音声は「求める」という意味の「尋 (xún)」と同じである。同音異義語を利用して「プラスチック製品」でも「リサイクル」によって商機を作ることができるという制作者たちの主張が面白く発信されている。

しかしながら、前節で指摘した通り、思考面において問題点が多く見られた。論理的な思考を着実に進めることを支援するための一案として、筆者は、CAOO への留意を促すという方法を提唱したい。これは、創作に向けて偏らず十全な思考が行われるよう、制作者自身の特色 (creator oneself)、観衆の関心事 (audience)、他の制作者の状況 (other creators)、全体的な視野 (overall view) という四つの側面に注意すべきことを伝えるという方法である。四つの側面を表す英語の頭文字をとって CAOO と略称し、学習者に対して創作の指針として提示するのである。各側面における具体的内容を表 5 に提示した。

表 5 思考力を育成するための項目と実践方法

項目	方法
制作者自身を中心にした部分 (creator oneself)	自分が作成したり制作したりしたもの、即ち自分に最も詳しい物事の特徴・特色が言える訓練を実施すること。例えば、学生が箇条書きをすることやキーワードを羅列するよう要求することによって学生のメタ認知が高まるだろう。
観衆を中心した部分	読み手や聴き手という観衆者の慣習、偏向を把握する訓練を実施すること。例えば、マスメディアによって

(audiences)	よく取り上げられた話題を整理したり、世の中のトレンドを議論したりまとめたり予測したりするアクティブラーニングをデザインすれば、今後日本語専攻生の思考力の訓練に取り入れることができる。
他の創作者 (other creators)	ほかの作品から得た示唆を簡潔に述べられるような訓練を実施すること。例えば、現在及び以前の時点で同じ分野におけるほかの創作者の取り組み方、更に別の分野の方法論についても収集して類似点、相違点、改善点を図表で整理したり分析したりする活動を教室で取り入れることができる。
全体的な視野 (overall view)	P (計画・企画) → D (試行・実行) → C (点検・評価) → A (対策・改善) という順序で物事の進行を遂行させる訓練を取り入れて、俯瞰的な思考方法を鍛えること。例えば、学習者が PDCA の各段階における問題意識、改善すべき項目、改善の仕方、自己の特色、他者との類似点と相違点を羅列・調査・議論・提示をするよう指導者側は要求する。関係図、流れ図、構想図、一覧表、まとめ表などを作成する活動を導入し、煩雑な情報や状況を具体化させる要約力を鍛える。また、創作者自身が全体の範囲においてどこに、なぜそうした位置づけをしているのかを考えたり、述べたり、羅列したり、議論したりするよう授業の中で教師は要求する。

本稿の第5節の分析が明らかにしたように、卒業制作の実態には、積極的な補強が必要とされる点が、優れていると思われる点よりも、多く観察された。学習者自身が自己を巨視的視点から捉えるメタ認知が弱いことが判明した。スキルや知識の活用にとって基盤となる思考力の涵養に注力する必要があることも明らかになった。もちろん、卒業制作に先立って実施されている諸科目においても担当者の多くが思考力向上に留意しているだろう。しかし、本稿の分析の結果からは、今後の世界に対応する学生を育成するにはこれまでとは全く異なるレベルで思考力養成を推進していく必要があることが示され、この目的に特化した科目を独立させて学科のカリキュラムを増補すべき時代が訪れていると考えられる。そこで、本稿の分析からの示唆に基づき、日本語専攻生の思考力を育成する科目のシラバスを構築した。表6は提案事項として示されているが、今後の課題としてその授業と他の授業の関連性について検討していきたい。

表6 思考力を育成するための科目のシラバス

項目	主な内容
自己の社会文化把握	台湾における衣食住、交通、レクリエーション、衛生、環境保護、内政、国際関係、政治政策、経済発展、ビジネス、金融、投資、国民性、教育、福祉、観光、歴史、文学、言語使用、エンターテインメント、マスメディア、SNS、SDGs との

	関わり合い等の現状と発展がある程度把握できること。
日本の社会文化の把握	上記における日本の場合について基礎知識の把握と基本認識ができること。
比較分析の方法	自他文化を客観的に観察し、比較分析ができること。
思考訓練	論理的思考（演繹法、帰納法）、水平思考（類推法、仮説検証方法、画期的に考えること、創造的に考えること）、統合思考（統合的で理想的に考えること）、批判的思考（弁証法、背理法）、実践論理思考（問題解決、意思決定、リスクへの対応を考えること、実践的で合理的に考えること）、高速思考法（関連性を敏感に考えること、高速でポイントを書き取ること）、システム思考（俯瞰的に考えること）ができること。
マインドマップの使用	マインドマップの使用ができること（マインドマップとは、人間の思考プロセスをありのままに反映したノート方である。つまり、頭の中で起こっていることを「可視化」することで、考え続けることが容易になる。一目で全体を見渡し、総合的に考えることができるため、思考整理、記憶、アイデアの発想などに有効である。）
TAE	TAE ができること（TAE とはまだ言葉にはなっていないが確かに分かっていることを言葉にしていく方法で、フェルトセンスからの理論構築法でもある。つまり、身体を中心部分にぼんやりと注意を向け、何かの気がかりにまつわる事という身体感覚と、気持ちの変化をつかまえた瞬間の感覚という感情体験が把握できることを指す。）
FOES	Facts（事実）、Opinions(意見)、Examples(実例)、Solution(対策)の四つのステップを辿って文章を作成することができること。
CAOO の実践練習	創作者自身（creator oneself）の特色、観衆（audiences）の関心事、他の創作者（other creators）の状況、全体的な視野（overall view）という四つの側面に考慮し合理的な作品を作り出すことができること。
HI と AI の比較	ChatGPT に適切な指令が提示できること。ChatGPT によって提供された結果と、自分自身が考えたものを比較し、内省且つ改善ができるようになること。

7. おわりに

情報技術が高度に発達した今日、従来は文系専攻者の得意分野と考えられてきた情報収集、分類、編集、集計、要約、翻訳、作文などの作業の大半が徐々に AI に代替されるようになってきており、外国語専攻の学科の存在意義さえ疑われ始めている。日本語学科の教師は「日本語専攻者を AI に代替されない思考力を持つように育成しているか」と、学生は「自分は AI に代替されないどのような能力を持つべきなのか」と、自らに問い続ける必要がある。

筆者は、日本語専攻生のレゾン・デートル(raison d'être 存在意義)とは、豊かな想像力と合理的な思考力を発揮して新たな価値を見出し、それを具体化して発信することによってこの社会に貢献するこ

とだと考える。つまり、今日では、日本語が使いこなせるだけの卒業生ではなく、高い思考力と論理性を持ち、独自の発想から建設的な提案ができる卒業生を送りださなければならないのである。本稿で提示した観察および議論がのびのびと闊達に現代を生き抜いていく学生を育成することに役立ち、台湾の日本語教育を発展させることに少しでも貢献できることを願っている。

参考文献

- 落合由治（2013）「キャリア教育デザインから見た「卒業制作及び指導」の位置付けとその展望—淡江大学日本語文学科実践のPDCA分析—」『多元文化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.55-83
- 北川修一（2013）「東海大学日文系「專題研究」私見」『多元文化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.84-91
- 許均瑞（2017）「学習者内省からみる「意思ある学び」の変化—PBLにおける学習ステップの目標とその効果—」『銘傳日本語教育』第20期、桃園、銘傳大学應用日語學系 pp.97-123
- 栗田佳代（2019）「アクティブラーニングを実践するには—主体的な学びの場を支える基礎と実装のアイデア—」『台灣日語教育學報』第32号、台北、台灣日語教育學會 pp.1-20
- 黄英哲（2013）「日本語・日本文化専攻の学科における卒業專題制作の発展方向と指導方法」『多元文化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.10-23
- 黄英哲（2023a）「より良い日本語ライティング教育のあり方への探求—台湾の日本語教育の視点から—」『東吳日語教育學報』第56期、台北、東吳大學日本語文學系 pp.60-89
- 黄英哲（2023b）「台湾の日本語専攻生の創作物の出来具合から考える思考力の育成」『2023年日本文知国際シンポジウム予稿集』、台北、淡江大学日本語学科 pp.102-109
- 黄美惠（2013）「「卒業專題」課程的現況與問題點—以文藻外語學院日文系日四技之畢業論文為考察對象」『多元文化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.129-142
- 小林由紀（2010）「教室活動における新たな読解授業の試み」『台灣日本語文學報』第27号、台北、台灣日本語文學會 pp.357-380
- 蕭玉燕（2013）「台湾の高等教育における卒業制作に関する研究南榮技術学院應用日本語学科の「專題製作」を事例として」『多元文

- 化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.118-128
- 曾秋桂・落合由治(2012)「技能実践学習としての「卒業制作及び指導」の成果と課題—淡江大学日本語文学科を事例研究対象として—」『台湾日語教育學報』第19号、台北、台灣日語教育學會 pp.24-52
- 曾秋桂(2013)「キャリア意識形成のための日本語教育の理論と実践—台湾淡江大学の「卒業制作及び指導」授業を例に一」『多元文化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.24-54
- 陳姿菁(2011)「TAE理論の日本語読解授業への応用—抽象思考の練習を中心に—」『日本語日本文學』第36期、台北、輔仁大學日本語文學系 pp.161-181
- 陳淑娟(2010)「TAE理論に基づく日本語教育の実践の可能性」『2010年言語・外国語教育研究シンポジウム—スキルとしての外国語・教育—』、台北、輔仁大學日本語文學系 pp.1-12
- 鄧曉梅(2013)「吳鳳科技大學應用日語系實務專題課程」『多元文化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.111-117
- 堂坂順子(2013)「点から始まるプロジェクト：專題制作の取り組みについて—国立臺中科技大学応用日本語学科の場合—」『多元文化交流』第5号、台中、東海大學日本語文化學系 pp.92-110
- 中村香苗(2016)「日本語L1—L2学生間の議論訓練における「気づき」—観察者評価に注目して—」『台湾日語教育學報』第26号、台北、台灣日語教育學會 pp.50-77
- 二通信子・大嶋弥生・山本富美子・佐藤勢紀子・因京子(2004)「パネルセッション：アカデミック・ライティング教育の課題」『平成16年日本語教育学会春季大会予稿集』、東京、日本語教育学会 pp.285-293
- 羅曉勤(2017)「台湾人日本語学習者の批判的リテラシー能力養成の可能性—社会現象を題材とした大学での作文授業を例に一」『台湾日語教育學報』第29号、台北、台灣日語教育學會 pp.61-82
- 羅曉勤(2019)「日本語作文授業における異文化理解力の養成—ケース学習を通して—」『台湾日語教育學報』第33号、台北、台灣語教育學會 pp.31-51
- 李宗禾・曾淑惠(2010)「思考力を高めるための作文教育の試み—課題決定におけるマインドマップの使用効果—」『台湾日本語文學報』第28期、台北、台灣日本語文學會 pp.309-333
- Donella H. Meadows(2008) *Thinking in systems: A primer* Edited by Diana Wright, Sustainability Institute, Windsor County, Vermont :Chelsea Green Publishing Company

付録¹¹

2019 年

番号	ポスターに出された題目 *記号は制作の題目	創作物
1-108	台湾語で台湾文化を味わおう *同上	書籍（パンフレット）
2-108	台湾における原住民部落の転換と変遷について—復興部落と山美部落を例として— *同上	書籍（パンフレット）
3-108	風靡亞洲的日本刀劍—用影片介紹刀劍給中文使用者— *同上	書籍（パンフレット）と動画
4-108	台南・古跡の旅 *府城，蹟不可失	書籍（パンフレット）と写真
5-108	台中スイーツ巡り *台中スイーツの紹介書—「台中スイーツ巡り」の制作—	書籍（パンフレット）
6-108	20代女性の化粧とコーディネート *同上	書籍（パンフレット）
7-108	台日グルメ競争売買 *ボードゲームを通じ、より日台グルメについての知識を高める	ゲーム類（ボードゲーム）
8-108	ザ・わがし *和菓子を滞在としたボードゲーム	ゲーム類（ボードゲーム）
9-108	戦国—英雄集結— *戦国—英雄集結！—	ゲーム類（ボードゲーム）
10-108	一看就瞭!日本年輕一百選・これでしょう!日本語若者言葉百選 *一看就了!日本年輕人用語 100 選（これでしょう!日本語若者言葉 100 選）	書籍（教科書）
11-108	ゴルフに関する日本人客誘致策の提案 *同上	論文
12-108	如何提升台灣行動支付使用意願消費者與商家(攤販)對行動支付之看法 *モバイル決済使用率向上に向けて—消費者と業者の視点を元に—	論文
13-108	台湾における書店の生存戦略について *同上	論文
14-108	台日回転寿司 PK 戦 *日台回轉壽司 PK 戦	論文
15-108	台湾のオタクの市場開拓戦略について—日本の例を参考にして— *同上	論文
16-108	台湾はどのように男女平等の社会に近づきつつあるのか—日本への提案— *同上	論文
17-108	台湾の大学生の恋愛観 *同上	論文

2020 年 *当該年度の卒業制作は 15 組あるが、コロナ禍の影響で 7 本のポスターしか入手しかなかった。

番号	ポスターに出された題目 *記号は制作の題目	創作物
1-109	特殊品「馬桶」之消費者表現—以 TOTO 和 HCG 為例— *専門品「便器」に関する消費者行動について—TOTO と HCG を例として—	論文

¹¹ 題目の記述については制作者が発表用のポスターと制作報告書の中のものをそのまま記録している。

2-109	台灣動漫產業發展策略—參考日本動漫產業經營模式— *台湾アニメ産業の発展戦略-日本アニメ産業経営モデルを参考に	論文
3-109	中上級の台湾人日本語学者向けの読解教科書の制作・専為中高級的台灣日語學習者設計的日語讀解教材 *中上級の台湾人日本語学者向けの読解教科書の制作	書籍（語学教科書）
4-109	台灣及日本兩國小學校性教育內容之比較 *台日の小学校における性教育の内容についての比較—台湾の十二年国民教育と日本東京都教育委員会の性教育の手引きを対象に—	論文
5-109	從日本的發展與現狀分析臺灣的配音產業策略 *台湾声優産業の発展戦略の分析—日本の発展と現狀を参考に—	論文
6-109	日本是否能夠打造永續發展的社會?—過去奧運到2020東京奧運準備過程探討— *2020東京オリンピックに向かう日本のSDGsへの取り組み	論文
7-109	現代人の視点から見る台湾の妖怪文化 *同上	書籍（パンフレット）

2021年

番号	ポスターに出された題目 *記号は制作の題目	創作物
1-110	日本大型文具企業對SDGs採取態度之剖析 *日本大手文具メーカーのSDGsへの取り組みと消費者の認識について	論文
2-110	顧客満足度與再購意願對品牌忠誠度之影響—以即溶咖啡和濾掛咖啡為例— *日台消費者の顧客満足度と再購買意欲がブランドロイヤルティに及ぼす影響の比較—コーヒーを例として—	論文
3-110	「食」在困難，球你拯救—探討糧食危機之原因及解決方法— * Save Foods Save Life—食糧危機における原因と解決策の検討—	論文
4-110	台灣と日本の米文化の違い *同上	論文
5-110	「ご縁がありますように」—小説創作— *同上	書籍（小説）
6-110	來品嘗擬聲擬態語吧! *オノマトペを味わおう—台湾グルメでオノマトペを学ぶサイトの制作—	ウェブサイト（語学学習）
7-110	在家也能輕鬆製作的台灣料理—もぐもぐ家庭料理APP— *日本人が手軽に楽しめる台湾家庭料理レシピアプリの開発	アプリ（社会文化の理解教育）
8-110	傳統老舖轉型之網路行銷策略分析與實作—以日本糖果老舖入江製菓為例— *ネットマーケティング戦略の分析及び実践—日本菓子老舖入江製菓を例として—	論文
9-110	日本國定假日知多少? 祝日を知りたい! *祝日を知りたい!	書籍（絵本）
10-110	APP模組設計 在日留學生的好幫手 *「YOLO APP」在日外留學生のアシスタント	アプリ（社会文化の理解教育）
11-110	台灣における食べ物の比較—南北の違いを例として— *同上	ウェブサイト（社会文化の理解教育）

12-110	<p>聲息不絶 歴歴在目 古き物と新しき物の融合：宮原武熊邸バイリンガルガイド 新與舊的融合 宮原武雄宅邸的雙語導覽</p> <p>*古き物と新しき物の融合：宮原武熊邸バイリンガルガイド</p>	書籍（パンフレット）と音声ガイド
13-110	<p>觀光戀旅</p> <p>*APP 恋の觀光案内</p>	アプリ（社会文化の理解教育）
14-110	<p>日台美食カルタ</p> <p>*同上</p>	ゲーム類（ボードゲーム）
15-110	<p>知日能力試験の問題集の開発</p> <p>—応用日本語学科の卒業生を対象として—</p> <p>*同上</p>	書籍（パンフレット）

2022 年

番号	ポスターに出された題目 *記号は制作の題目	創作物
1-111	<p>SDGs 之推動與行銷策略之研究—以台日企業個案探討為中心—</p> <p>*日台企業の SDGs の実行とマーケティング戦略に関する考察と提案</p>	論文
2-111	<p>做伙來學台語</p> <p>*台湾語学習サイト</p>	ウェブサイト（語学学習）
3-111	<p>Renew 台灣最潮二手服飾店</p> <p>*古着商店の開店企画書—日本の古着業界の運営を参考に—</p>	書籍（企画書）
4-111	<p>以日本來的台語外來語延伸之台灣文化研究</p> <p>*日本から伝来した台湾語外来語と台湾文化に関する書籍制作</p>	書籍（語学教育）
5-111	<p>探討臺灣中高齡者勞動力的再利用—以台日時間銀行之長照服務為例—</p> <p>*台湾における中高齡者の労働力を分析する—台日時間銀行の長期介護サービスとして—</p>	論文
6-111	<p>よく使われる慣用句—生活から職場へ—</p> <p>* 同上</p>	書籍（デジタル形式、語学教育）
7-111	<p>「塑」界問題「循」求轉機—台灣如何打造循環型社會，以日本 LOOP 為例—</p> <p>*台湾は如何に循環型社会を作るのか—日本の Loop を参考に—</p>	論文
8-111	<p>台湾人日本語学習者向けのアプリ開発・專為臺灣人打造日語學習 APP</p> <p>*台湾人日本語学習者向けのアプリ開発</p>	アプリ（日本語学習用）
9-111	<p>臺中第二市場的奇幻之旅—日治時期歷史與公有市場的回顧與展望—</p> <p>*日本統治時代の歴史的建築物及び公設市場の回顧と展望—台中第二市場における幻の旅—</p>	書籍（デジタル形式、パンフレット）
10-111	<p>我們「和」好吧!如何以台日、港日關係為例，構築更好的日韓友好關係—透過 SDGs 觀點分析—</p> <p>*みんな友達! 台湾と日本、香港と日本の友好關係を例として、より良い日韓關係を構築するには: SDGs の観点から分析</p>	論文
11-111	<p>漫遊日本神社—神社導覽大富翁—</p> <p>*同上</p>	ゲーム類（ボードゲーム）
12-111	<p>STEAM 教育導入初等日文教育的可能性</p> <p>*同上</p>	論文
13-111	<p>本能寺事變—君の選択—</p> <p>*同上</p>	ゲーム類（オンラインゲーム）

付記：本稿は 2023 年 4 月 29 日に淡江大学で『2023 年日本文知国際シンポジウム予稿集』の口頭発表の内容を基に大幅に発展させたものである。また、査読された先生方から大変有益なコメントをいただいた。ここにて諸先生及び関係者の方々に記して心より厚く御礼を申し上げたい。